

本部をニューヨーク・マンハッタンに置き、「マンハッタン計画」(暗号)とした。

翌年ニューメキシコ州「ロスアラモ」に研究所を設立し所長はジョン・ロバート・オープンハイマーである。(ここは陸の孤島であった)。「グロブス将軍」のもと20万人が稼働した。マンハッタン計画は13万人稼働、20億ドル投入という。

4. 原爆投下都市基準

①原爆投下都市

投下目標は、原爆の効果を正確に測定できるよう、直径3マイルを超える大都市であること。

②損害効果多大都市や地形

爆風による効果的な破壊が可能である都市。

③候補

当初は京都、広島、横浜、小倉、新潟を選定。東京、名古屋、大阪はすでに空爆を受けており、原爆の威力が分からないため除外。

新潟は、遠路のため除外。

京都や奈良は、遺跡や歴史的建造物が多く、国民の心の拠り所であることから除外。

④投下

広島は目標都市の中で唯一、連合国軍の捕虜収容所がなく、軍事施設や軍事工場が集中しており、それらがまだ破壊されずに残っていたため第1目標となり、ウラニウム弾が投下された。

広島に投下後、再び投下作戦が行われ、第1

目標が小倉、第2目標が長崎となった。小倉は悪天候で、3回試みるも失敗、急遽長崎に変更してプルトニウム弾が投下された。

5. 原爆反対運動

①アイゼンハワー陸軍元帥はトルーマン大統領に原爆反対を伝えている。

②原爆開発者レオ・シラードは投下2ヵ月前に投下中止を求めてトルーマンに手紙を書き、150人の反対署名も届けているが受取られなかった。

③トルーマンも「原爆が女性や子どもが目標にならないように強く命じた」と述懐している。

6. トルーマンはポツダム会議でソビエト連邦・スターリン最高指導者に「絶大な破壊力を持つ新兵器を手にした」と告げた。スターリンは1942年末停止していた原爆開発を再開して4年後に成功したが使用していない。

英国・仏国・中国も開始中で、使用していない。

米国は広島原爆の4倍の威力の水素爆弾の実験に成功し保有している。

北朝鮮も1日も早く原爆開発を中止してほしい。
“世界平和のため核兵器の根絶を”願って止まない。

文献 歴史のミステリー 22号 (原爆投下)
歴史研究その他 2-3部

北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ例

パソコンをMacに変わらしたら使い方がよくわからない・・・ご利用方法をご案内

プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・ご利用方法をご案内

光電話ってどうしたら使えるの・・・光電話についてご案内、取次ぎも可能

エクセルの使い方がよくわからない・・・一般的な使い方であればご案内可能

サポートに来てほしい・・・駆けつけ業者を手配します(有料となります)

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター (平日 10:00～12:00、13:00～17:00)

○TEL： 011-738-3401

○E-mail： support@hokkaido.med.or.jp